

令和元年度第4回海老名市男女共同参画協議会について（結果）

日 時	令和2年1月23日（木）10：00～12：00
場 所	市役所7階 705会議室
出席者	吉田会長、尾崎副会長、今別府委員、清水委員、川村委員、 間宮委員、白倉委員、大治委員、滝口委員 課長 渡辺、人権男女共同参画係長 加藤、主任主事 小貫
欠席者	大島委員、伊田委員、松本委員
傍聴者	3名

1 開 会

事務局)各団体より委員を選出していただいているが、役員の変更に伴い、梅田委員より間宮委員に交代された。間宮様、どうぞよろしくお願いたします。

2 挨 拶

会長)大学にて月1回読書会を開催し、学生と意見交換をしている。先日読んだのが「女性のいない民主主義（前田健太郎著、2019年）」で、政治権力が男性に集中する日本は、民主主義国と呼ぶに値するののかという問いがテーマになっている。興味があれば皆さんも読んでほしい。男女共同参画を進めているつもりでも、女性視点では未だに違和感がある場合が多い。それは男性に生活実感が少ないからで、例えば「育児をしている」つもりのイクメンパパでも、実態は子どもの顔を見に行く程度で、他の家事は妻任せ。母親一人でのワンオペ育児はつらく、密室に籠もりがちになると精神も疲弊してくる。退職後の男性はというと、一日中テレビを見て「座布団から出ない」と揶揄されるほど、仕事を失うと無気力になってしまう。健康的な精神を保つには社会とのつながりが大切。LGBT・SOGIの当事者で、家族にはカムアウトできなくても大学の理解ある人には話せるという学生がいる。社会から孤立しない、人との繋がりを持つことはどの人にも必要である。

事務局) LGBT職員研修を毎年実施しているが、市民向けに公開講座も検討したい。

3 議 題

(1) 海老名市女性の活躍推進事業所の表彰について 女性の活躍推進事業所表彰式等 実施結果

委員) 視察で対応してくれた女性スタッフの方がいきいきと働いていた。事業所の新規発掘は難しいかもしれないが、ここはと思う事業所は推していきたい。

委員) 子ども連れで移動すると、どうしても授乳室やおむつの有無が心配になる。店で気軽にキッズスペースを利用できるのは嬉しい。

委員) 毎年事業所募集に苦勞しているが、例えば県では「神奈川なでしこブランド」等を実施している。女性が開発に貢献した商品(モノ・サービス)を募集するのであれば、他に事業所は市内にもある。

会長) 事務局は委員の意見を参考に、今後の事業について検討してください。

(2) 市政アンケート調査の結果について

委員) アンケート結果によると、学校では平等だったが就職後、社会に出ると平等ではないと感じる人が多いようだ。また、結婚して家庭を持っても違う結果になる。

事務局) アンケートは3000名に送付し、有効回答率が46%、約1380名回答。

委員) 日本のインターネットでは、性犯罪被害者が誹謗中傷を受ける傾向が少なからずあり、世界の反応とギャップがある。これは、日本社会に男性優位の意識が根付いているからだ。1985年の男女雇用機会均等法が成立したときも、当初は強い反発があった。

委員) 女性の活躍推進のためには女性の管理職を増やすことが必要。そのためには集団でステップアップしていく意識形成が大切。例えば従業員の500人中400人が女性でも、パートからキャリアアップを希望する女性はなかなか出てこない。それは、短時間勤務から長時間勤務になることで生じる様々な課題をクリアできなかつたり、税金の配偶者控除の範囲を超えないように働くいわゆる「150万円の壁」問題が原因にある。

委員) フルタイム勤務が可能な状況を作るには様々なプランが考えられるが、抜本的にダイナミックに変えていく勢いが無い。社会を作っているのが男性であり、無意識に男性を基準にしてものを考えているからである。世のお母さん達がワンオペ育児に苦しんでいるのであれば、社会全

体もその責を負うべきだし、夫も危機感を持つべきだ。

委員)最新のニュースによると育休取得男性の三人に一人が「育児は2時間以下」だという(コネヒト株式会社によるWEB調査、2020年1月)。これでは本末転倒だし、育児休暇の意味をなしていない。幼少期、男の子が母親から優遇され育てられたことで植え付けられる性別役割分担意識がまだ残っているのだ。

(3) 第3次海老名市男女共同参画プランの策定について

- ① 第3次海老名市男女共同参画プラン(案)に関するパブリックコメントの実施について
- ② 第3次海老名市男女共同参画プランについて
- ③ 第3次海老名市男女共同参画プラン(案)に関するご意見

事務局)パブリックコメントは広報えびな及び市ホームページにて公表している。現時点での問い合わせは無し。

⇒1月30日に1件あり。市ホームページにて回答を公開した(事)。

事務局)10年計画である総合計画「えびな未来創造プラン2020」と連動し、第3次プランはその半期である5か年計画とし、新たに総合計画と共に各種事業をすすめていく。男女共同参画やジェンダーに関する考え方が目覚ましく進む昨今、6年間や10年間という期間は長すぎると判断した。5年計画の中で2、3年目頃、現況にあわせ事業見直しをしたい。

事務局)協議会委員からのコメントを参考に、男女共同参画に関する意義を伝えるコラムを掲載する予定である。アドバイザーの広岡先生に執筆依頼・調整する。

委員)プラン9ページの指標にて、男女共同参画社会の認知度を100%としているのは心強い。

事務局)講演会、事業所視察などや、市役所内部の女性の管理職の割合等、目標に対して率先して取り組んでいく。特に暴力防止に関する相談窓口の必要性は年々高まっている事を感じている。

委員)人権擁護委員は海老名市立小学校の低学年を対象に人権教室を行っている。児童がとても熱心に話を聞いてくれているので、小さい頃から性別を問わず思いやりを持つことを教えたいと思っている。

委員)男性優遇の家庭で、父母の振る舞いを見て育つと子どもの認識も違ってくる。子どもは親の振る舞いを真似するからだ。最近の父親は、家

庭訪問や授業参観も自分で出たがり、そのために会社を休むという。子育てを自分の仕事と考える父親が増えるといい。

委員) 女性支援活動に携わっていく中で、最近はDVに関する相談がとも増えたと感じる。DVは、女性はもちろん子どもの育成にも影響を与える。子どもにも目を向けて支援していきたい。

委員) 今の子育て世代は、女らしく、男らしくという意識が薄い。しかし、子どもの祖父母世代の意識は依然として変わっていない。家事は女性の仕事であるとか、男性の面目を立てないといけなとか、家庭の中では未だに性別役割分担意識が残っている。もっと男性に男女共同参画について考えていただかないと、特に共働きの女性は働きながら家事も行い、結局はほとんどの負担を背負うことになる。この意識を抜本的に直さなければいけない。

委員) 休日に子供と遊んで育児をした気持ちになっている父親もいるが、他にも家事・育児には膨大な作業がある。男性が育児に関われないのは、長距離通勤・長時間労働が大きな原因である。

委員) イクメンが増えていることは非常に喜ばしい。子どもの授業参観や運動会等の行事のために、仕事を休んでまで参加するパパも多い。「イクメン」と言うのは易しだが、それを一週間、一年間通してずっと続けていけるかがパパの課題になる。以前は「仕事だけしていればいい」と考える男性が多かったが、女性の地位が上がってきた今、男性も「毎日がイクメン」という意識を持てるといい。昔よりいい時代になったと思うが、一部では変わっていく社会への反発があったり、このままでいいのかと賛否両論になっている課題もある。

委員) 女性支援活動でDV啓発リーフレットを配っている。もしも、DVが発生する家庭かもしれないと感じても、直接渡したりポストに投函するとかえって被害者が萎縮してしまい相談する機会を失うことがある。だから、親子サロンで配架し、気になった方だけ手に取れるようにしている。問題のある家庭を探すことは難しいが、近所の方々の声を地道に聞き取っていくしかない。まず見て回って、辿って、やっと発見できる。一番難しい課題だと思っている。

委員) プランの中では働き方に関する部分があるが、これは組織を運営する上でとても悩むところである。ワーク・ライフ・バランスを適正に保つには、時間外労働や有給休暇、働き方を見直す必要がある。設定した目標を達成できないなら、なぜ達成できなかったのか調査する。職場環境を改善していくためには、一人ひとりが仕事に対してどう向き合うか考えなければならない。家庭あつての仕事なので、仕事のやり方、生き

方を見直していく。それをどのように市民にアピールしていくのか。私の周りでは、子どもが発熱した時、保育園のお迎えを夫に頼む女性従業員がいた。これは、男女が共に働きやすい職場環境が整えられ、父親が育児することへのためらいが薄れてきたということだ。全ての場面で絶対に男女が平等・対等である必要はなく、場面によって臨機応変に対処するべきであり、うまくバランスがはかられば男女差による歪みもなくなる。

委員) プランで一辺倒なものの考え方を見直していただけるようにしたい。

4 ページ、基本方針 1「あらゆる分野における男女共同参画」というが、見落としている分野もあると思うので随時目を光らす必要がある。

基本方針 2「仕事と生活の調和」だが、女性の意識が変化しつつある時代の流れで、女性への支援が充実してきているが、男性に対する支援にも取り組まないとアンバランスになってしまう。

基本方針 3「暴力の根絶と女性への支援」は女性の DV への認識が変わってきている。それには、相談窓口の役割が大きいと感じる。

指標・数値的目標だが、目標に待機児童数ゼロを入れたのは良かった。審議会の女性登用率の目標達成は厳しいかもしれないが、35 パーセントはあって欲しい。「あらゆる分野」と言うが、女性が進出していない分野は多く、例えば避難所での長時間生活に起こるトラブルを想定に入れると、防災関連での女性進出は必要。神奈川県でも、審議会の女性登用率は低い。ハードな仕事は任せられないと勝手に判断され、女性が避けられてしまう。

委員) 「ワンオペ育児」は専業主婦が多く直面する問題である。全国で M 字カーブの最低は神奈川県である。民生委員にも協力していただき、地域で支えることを考えるべき。ひとり親家庭は最も危惧される問題のひとつで、支援の例としては空き家の貸し出しや、シングルマザー専用シェアハウス、家賃補助等がある。見落とされがちな男性のひとり親の支援も同様に行って欲しい。一番大事なのは、複合的に色々な支援を行っていく事で、そのためにはお金が必要。予算は厳しいかと思うが、市にはぜひ尽力していただきたい。生活目線でものを考えて欲しい。

委員) イクメンは増えたものの、育児に積極的でない男性も未だに多い。男性も女性も DV 相談は増えている。被害は女性が受けるものという意識を変えるべき。相談窓口の存在を必要な人に案内しなくてはならないが、PR が難しい。

委員) プランの推進体制だが、課長相当職にあたる女性を増やすことも必要だが、仕事の分野や内容が女性に適したものであるよう工夫する必要

がある。例えば大学の土木学科では、昔は女性の入学者は10年に1人と言われたが、今は女性が沢山勉強をしている。家事・育児と仕事を両立させるため、働きやすい公務員への就職を希望する女性は多い。市役所に女性管理職が増えることを期待したい。男性も介護の問題でワーク・ライフ・バランスの悩みに直面することがある。妻と夫の双方が協力しあう必要がある

委員) 男性が介護の問題にぶつかると、介護休暇や育児休業の意義を実感することが多い。管理職研修では、育児だけではなく介護に関する問題にアプローチする必要がある。育児休業を取得した知り合いの男性は、「子育ては予想外のことが様々に起こると気が付いた。子供は突然風邪をひくのだという当たり前のことを初めて認識した」と言っていた。

委員) 有給取得日数は法律に制定されているが、取得する人・しない人の差が激しく、マネジメントの難しさを感じる。

委員) 幅広い視点から目を光らせることが大事であり、関係ないと切り捨てるのではなく全員の問題だと捉えるべき。これからの男女共同参画では、女性だけではなく男性の働き方にも目を向けていくべき。一人ひとりの生き方を尊重するダイバーシティの時代で、生きがいの持てる仕事を続けながら、家庭を大切にす若者も増えている。

委員) 精神的DVを受けても気づかずにいる人がいる。事例を知らないと気づくことができないので、これからも啓発が必要。

会長) 委員の皆様からこれまでの活動についてコメントをいただきたい。

委員) とても参考になった。女性が性被害を告発すると逆に誹謗中傷されたり、女性が様々な性別役割分担による重荷を負うのは、今まで男性優位だった社会のなりたち依る。男性にとって当たり前の社会では、女性が少しでも主張すると、「過剰に騒ぎ立てている」というレッテルを貼られてしまう。未だに男性優先の考え方が当たり前とされているからであり、男性と女性がまだ対等になっていない証左である。ガラスの天井のないのびのびとした社会を見たい。

委員) 児童虐待のニュースは後を絶たないが、虐待をする親はそれを「しつけ」だと思っているので罪悪感はない。相手を大事にする教育を受けた児童には、自分だけではなく相手も守ろうとする意識が育まれる。相手を大切にす心は人間関係の最も大事な基礎である。

委員) 女性は男女共同参画やDV被害について知識を得る場があるが、男性にはそういった機会が少ない。男性にもそういった機会を作れば、男性も女性もより幸せになれると思う。

委員) 協議会に出席する中で、男女の扱いに差がある事に気付けた。今まで、男性は仕事だけをやれば良いという世界で当たり前前に生きていた。私の子ども世代の意識は変わっていて、子どもの送り迎えを男性が自然に担当している。「イクメン」という言葉は便利だが、わざわざ「イクメン」と言ってあげないと家事・育児に男性が関われないという事でもある。男性も女性も関係なく、助け合って子育てをして欲しい。

委員) 男女共同参画という言葉は理解していたつもりだったが、皆さんの活発な意見交換の中で新たな発見があり、これからの仕事や生活の糧になっていくと思う。子育てを男女平等で一緒に行う、男女共同参画社会の実現は、自分が子育てした時代は無理だったが、もしかしたら息子世代であれば可能かもしれない。

委員) 男性に対する DV 相談も広く周知するべき。女性から男性への暴力もまた DV である。また、現在家族の介護をしているが、力仕事なので女性では限界を感じ、知り合いに手伝っていただいている。助けて欲しい時は、隣近所に声かけしている。手助けをしていただくだけではなく、他の方と話すことで、気持ちの切り替えをしている。息子に子どもが生まれたが、よく子どもの面倒をみており、新しい世代に希望を感じる。

委員) 様々な分野で男女の意識が変わってきている。課題を見つけ、一つ一つ乗り越えていかなければならない。職場では、意思決定の場に多様な意見を取り入れるために、会議のメンバーに必ず女性を入れるようにしている。男女共同参画だけではなく、それを含めた人権意識、ダイバーシティ意識を皆が持てば、日本全体がより発展していく。

委員) 男性に対して、男性講師が男女共同参画について話す事は効果的だと思う。これからの未来のためには、早くから子どもに対して啓発し、男女平等を当たり前とすることが必要。不安定な雇用状況の中で、女性が共稼ぎを諦めて専業主婦になったとしても、もしも夫が将来職を失えば、家族全員が路頭に迷うかもしれないリスクがある。人口半分が女性なのだから、女性が働く事を前向きにとらえるべき。小学生の頃から、例えば皆で遊ぶ時に障害のある子も仲間に入れる平等意識を持つ。ダイバーシティの精神をもって、子どもも、女子学生も、皆が自分の生き方について考えて欲しい。

(4) 男女共同参画講話

事務局) アドバイザーの広岡先生にご出席いただく予定だったが、やむを得ないご都合により辞退されたため中止する。

4 その他

- ・ 男女共同参画協議会委員の公募
- ・ 男女共同参画推進員の募集

5 閉 会